

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月19日

北海道教育委員会教育長 様

北海道大麻高等学校長 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|--|
| <p>(1) 生徒の健康と安心安全を最優先として時代の変化や社会の変化に柔軟に対応した、創意工夫ある教育活動に取り組む。</p> <p>(2) 魅力ある授業づくりと指導と評価方法の改善により、「個別最適な学び」の充実を図るとともに、多様な他者との「協働的な学び」を推進する。</p> <p>(3) 生徒個々の志望と学力等実態を的確に把握し、組織的・計画的なキャリア教育を実践するとともに、探究的な学びを推進する。</p> <p>(4) すべての教育活動を通じて、育成を目指す10の資質・能力「麻高GP」を身に付ける取組を推進する。</p> <p>(5) 生徒の学びの確保や心身の成長に配慮し、部活動においては別に定める活動方針に基づき、適切な活動時間と休養日を設定し、その完全実施に取り組む。</p> <p>(6) 「学校における働き方改革」に組織的に取り組み、これまで以上に効果的な質の高い教育活動を展開する。</p> |
|--|

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	学習指導要領に基づき、大学進学をはじめとする生徒の進路希望に対応した教育課程を編成するとともに、教員が意欲的に指導方法の工夫改善に努め、ICT機器を適切に活用した上で主体的な学習態度の育成を図り、学力の向上に努めた。	大学進学を目標とするだけでなく、大学進学は生きていく上での通過点であり、その先を見越した指導を行い「生きる力」を育んでほしい。ICT機器を適切に活用し、主体的な学習に取り組み続けることで、成果は上がっている。
改善方策	生徒の学習意欲を高めるために、ICT機器などの教材・教具の活用方法について工夫改善を継続する。また、育成を目指す資質・能力に関する方針の実現に向けて、学習指導要領に基づいた教育課程の編成を行い、指導の方向性を共有する。	
生徒指導	教育相談や情報モラル教育の充実を図り、生徒の望ましい人間関係構築や自己指導能力育成の支援をした。また、学校いじめ防止基本方針を踏まえ、些細な兆候に注意し、生徒の訴えを抱え込まずに組織的に対応した。	人間関係の構築を含め、コミュニケーションの取り方を学び、乗り越えていくことも必要となる。ただ、保護者も子に対して無理をさせない状況もみられることから、引き続き、個々に応じたサポート体制の構築が必要となる。
改善方策	地域・保護者・関係機関との連携を強化し、問題行動の早期発見とその指導に努める。	
進路指導	生徒の進路実現のために年間の課外講習、模擬試験、面接指導等を計画的に実施した。また、進路指導に関する保護者の理解と協力を得て、生徒の進路に対する意識を啓発し、進路選択の支援の充実を図った。	1年次からの計画的な指導を行い、生徒一人一人の進路実現に向けて、講習、個別面談、資料による情報提供、保護者との連携・協力など指導の体制が確立されている。引き続き、継続をした進路指導に努めてほしい。
改善方策	大学入試に関する情報収集に努め、より一層の指導の充実を図るとともに、生徒の進路実現のために、効果的な課外講習、面接指導を実施する	
健康・安全指導	特別支援委員会の指導体制が確立され、ホームルーム担任や生徒への支援体制のより一層の充実を図った。	熱中症対策について、状況に応じた対策に努めてほしい。家庭や地域、関係機関とも連携、協力し、交通安全、防災に関する指導に努めている。
改善方策	地域や学校の実情を踏まえた実践的な避難訓練を行うなど、生徒の防災に対する意識を高めることを目的として、関係機関と連携した防災教育に努める。	
公表方法	学校ホームページで公表する。	